

はじめに

私はふだん、大学生に日本語を教えています。授業では、「あらゆる学問の基礎となるのは、言葉を使いこなし、自分の考えを正確に表現することだ。」と伝えています。言葉というものは、私たちが生きていくうえで必要不可欠なものです。

おしゃべりは得意だけれど、作文はあまり好きではない、という人も多いかもしれません。でも、書くことも話すことも、コミュニケーションという意味では同じです。文字で伝えるか、音で伝えるかというちがいだけなのです。あなたが感じていること、考えていることを言語化して表現することで、それを読んだ人・聞いた人は、あなたを理解することができます。

また、書くことは考えることでもあります。みなさんも文章を書くとき、「何を書こうかな」「書き出しちゃう」「どうまとめたらいいのだろう」など、いろいろと考えをめぐらしますよね。さらに書きながら、「ちがう見方もあるのではないかな」「そりゃもう、自分で分はこう思っているのだろう」などと意見や主張が変わることも、よくあります。書くことを通じて、考えていることを伝えられるだけでなく、自分の考へたり深めたりすることができるのです。

つまり、「書く力」は、学校や塾の勉強のためだけでなく、豊かに生きるために必要な力なので、そこで、やり返し練習することで、だれでも身につけることができます。大切なのは、自分のいい衣装し、伝えようという正直な心。書くこと、考えること、伝え合うことを楽しむことです。

金田一秀穂（日本語学者／杏林大学外国語学部教授）

もくじ

① 第1部 「書くこと」の大切さと「書き方」のコツ

第1章

「書くこと」は「ミニケーション」

7

6



② 意見文、報告文を書いてみよう

第1章

意見文、書き方のコツ

11

6

① まず大切なのは「慣れること」

11

7

6

① 要約をしてみよう

11

7

6

② 要約のポイント

11

7

6

② 読み手をイメージして書こう

第2章

① 長めの文章を書くためには

11

7

6

① ワーク 江戸時代の人々に、携帯電話を説明しよう

11

7

6

② 相手に伝わりやすい文章を書くポイント

11

7

6

③ まとめ

11

7

6

文章の「基本」「型」「ルール」

17

16

① 基本をおさえ、読みやすい文章を書こう

17

16

① よい文章の基本

11

7

6

② 「文章の型」とは

11

7

6

③ 文章のルール

11

7

6

④ 文章パズルを完成させよう

11

7

6



53

② 実際に報告文を書いてみよう

第2章

① 報告文の目的とは

47

46

39

② 報告文の組み立て

47

46

39

③ 報告文を見比べよう

47

46

39

④ よい報告文とそうでない報告文のちがい

47

46

39

このテキストの特長と使い方

このテキストの特長

映像授業の内容をまとめたテキストです。

映像授業を見ながら、先生の指示にそつて使いましょう。

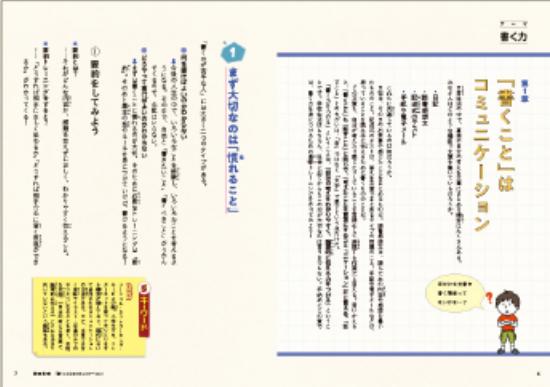
授業後の復習にも活用してください。

ナビゲーターの先生が教える

「書く力」アップのコツがつまっています。

書きこみ式のワークをたくさん盛りこんでいます。

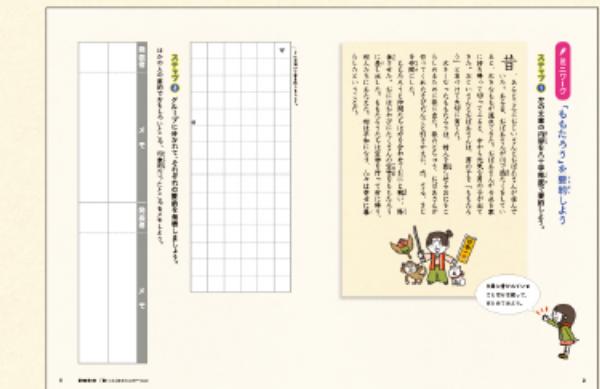
使い方



このテキストは、テーマに関する基礎知識を映像授業の内容にそつてまとめています。必要なキーワードを説明します。



テーマに関連した資料のページです。



ワーク

取り組みやすいワークでウォームアップします。

学習してきた内容を使ってより本格的な「書く」ワークにちょうどせんします。

解答例と自分の書いたものとを見比べてみましょう。

学習の進み具合に応じて取り組むワークです。

「書き方」の大切さと「書き方」のコツ

第1部

Sample

「書くこと」は コミュニケーション

日常生活の中で、事実や自分の考えを文章にまとめる機会はたくさんある。みなさんはどういう場面で文章を書いているだろうか。

・日記

- ・読書感想文
- ・記述式のテスト

・手紙や電子メール

これらに共通しているのは、手紙や電子メールなどは、日々の出来事や感想をまとめるものだ。読書感想文は、読んだ本の内容や感想を書いたもののこと。記述式のテストは、筆を文章でまとめるタイプの問題のことだ。手紙も、自分が考へり感じたり、思っていることを読み手に伝えることを書くことだ。どの文章も、自分が考へり感じたり、思っていることを言語化して表現する作業だと言える。言いかえると、「書くこと」も「話すこと」と同じで、「こと」と「こと」を言葉にする「コミュニケーション」と言える。「話すこと」とのちがいは、「音」ではなく、「文字」で表すという点だけだ。

「書く力をつける」ということと、「自分の考へりやすくて、論理的に伝える力をつける」ということは、学校生活はもちろん、社会に出でて、自分の力が大切なのは言うまでもない。手始めにこの章では、書く力を身につけるための基礎知識をやってみよう！

1 まず大切なのは「慣れる」とこと

「書くのが苦手な人」には大きく二つのタイプがある。

● 何を書けばよいのかわからない

今後の人生の中で、いろいろなことを経験し、いろいろなことを考へようになる。その中で、自然と「書きたいこと」「書くべきこと」がうかるので、心配はいらない。

● どうやって書けばよいのかわからない

まずは書くことに慣れるのが大切。そのためには必要なトレーニングは、「要約」。そのあと基本の型やルールを身につけていけば、書けるようになる！

① 要約をしてみよう

* 要約とは？

……それがどんな内容か、感想を交えずに正しく、わかりやすく伝えること。

* 要約トレーニングをすると？

……「どうすれば相手に正しく伝わるか」「どうすれば相手の心に届く表現ができるか」がわかってくる！

キーワード

SNS

ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。小学生でも、インターネットを使ってやりとりをする機会が増えており、現代において多用されるコミュニケーションの方法である。ただ、文章ではなく単語やイラスト・写真のみでのやりとりになることも多く、手軽な反面、「自分の考えを言葉で論理的に伝える」ことにはあまり向いていないという側面もある。

ほかにも文章を書く場面ってないかな…？



「ももたろう」を要約しよう

ステップ① 左の文章の内容を八十字程度で要約しよう。
ないよう
ていど

昔、あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいた。ある日、おばあさんが川で洗せんたくをしていると、大きなももが流れてきた。おばあさんがそれを家に持ち帰って切つてみると、中から元気な男の子が出てきた。おじいさんとおばあさんは、男の子を「ももたろう」と名づけて大切に育てた。

大きくなつたももたろうは、
らしめるために旅に出た。旅のと、わいあさんが
作つてくれたきびだんごと引き、
を仲間にした。

ももたろうと仲間たちは力を今、
参させた。おにはおわびにた、
に差し出した。ももたろうたちは宝物、
村人たちにあたえた。村は平和になり、
らしたということだ。



文章に書かれている
ことだけを使って、
まとめてみよう。



ステップ② グループに分かれて、それぞれの要約を発表しましょう。

ほかの人の要約でおもしろいところ、印象的だったところをメモしよう。

発表者
一発表者

メモ